



ただ今ご紹介にあずかりましたユーチューバーの高原でございます。

ぜひチャンネル登録・高評価をお願いしたいと思います。

今回、コロナの感染拡大を抑えるということで、色んな方々から応募があったのですが、実際には 2/3 の方にご遠慮していただくことになりました。絞りに絞りに絞って、今日お越しの皆様は、言わば濃縮還元ジュースみたいな、搾りかすみみたいな、そんなことはないんですが。

特別に選ばれた皆さんの前で、今日素晴らしい時間を過ごせることを特権だと思います。

2週間ほど前、あるホテルで聖書の講演をしました。そのホテルはパンフレットによると、日本で1番大阪城が美しく見えるホテルだと。実際会場に入ると、大阪城天守閣に向いている側は全部ガラスで、天守閣が真正面に見える。大阪人でも「この角度で見たら、大阪城キレイなあ」とうっとりして、窓際でじっと見ていたら支配人が来て、「大阪城の見方は窓際に立つよりも、窓から離れていただく方がいいです。実はこの窓は拡大レンズになっていて、窓から離れれば離れるほど、大阪城がでかく見えるように設計されているんです。」

ホンマかなと思って後ろに離れて行くと、ぐんぐん天守閣が大きくなり、会場の入口まで行ったら、大阪城が窓からはみ出していました。エライ造りやなと。「すごいですね。」すると支配人が「このホテルの主人公は大阪城ですから。大阪城あつてのウチのホテルですわ。だから、来館者には主人公に注目してもらえるような設計をしています。主人公に注目すると、その良さが一層見えて来るんです。」

クリスマスにも主人公がいます。ケーキを食べる日ではなく、どんちゃん騒ぎをする日ではなく。クリスマスの“クリス”はギリシア語でクリーストス。キリストのことです。“マス”は礼拝のお祭りのこと。祝祭。すなわちクリスマスは、神が人となってこの世界に到来されたイエス・キリストを記念すること。思い起こす・記念する祝祭。これがクリスマスと言われているんですね。

今日皆さんは本物の集会に来られました。思っていないかもしれませんが、ここ教会なんです。

折角の日曜日、12月クリスマスシーズンに教会に来られた。

なので、クリスマスの本当の意味は何かをご一緒に考えたいと思います。

今年は2020年。何から数えて2020年かという、イエス・キリストの誕生を起点として、そこから2020年という意味ですね。イエスの誕生は人類史を真二つに割ったのです。

キリスト誕生以前を紀元前、Before ChristでBCと言います。キリストがお越しになってからを紀元。日本人は今令和の時代ですが、パスポートは西暦のはずです。パスポートは世界共通の身分証明書で、世界のどこに行っても「私が私なんだ」ということを証明してくれる。

パスポートの日付けは、イエス・キリストの到来を記念して勘定されているのです。

それだけではなく、世界には約200の国がありますが、クリスマスを国家の祝日にしている国が約150以上あるんですね。日本には政教分離の原則があって、宗教的に意味のある日を国家の祝日にするのは禁じられています。でも多くの、全世界の3/4の国々は、クリスマスは国家を挙げて休むんです。

さて、世界で最初のクリスマスはイスラエルのベツレヘムでありました。

イエスの誕生をいち早く知らされた人たちがいたんですね。彼らは王宮にいるような指導者たちではなく、大学教授のようなインテリではなく、肉体労働の人たちでした。

徹夜で羊の番をしている羊飼いのところに神の使いが来て、「旧約聖書に預言されていたメシア/キリストが遂に今日、旧約聖書に預言された通り、指定場所であるダビデの町ベツレヘムでお生まれになった」と言うところから始まるんです。

今日のテキストを読んで、ここからイエス・キリストがお越しになった理由を3つのポイントで説明したいと思います。

#### ルカ 2:8-11

8. さて、その地方で、羊飼いたちが野宿をしながら、羊の群れの夜番をしていた。
9. すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が周りを照らしたので、彼らは非常に恐れた。
10. 御使いは彼らに言った。「恐れることはありません。見なさい。私は、この民全体に与えられる、大きな喜びを告げ知らせます。
11. 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。

「恐れることはありません。」これは、主の使い（主は人間を造った神）を通して「恐れるな！」聖書の中には「恐れるな」という言葉が365回出て来るそうです。1年365日。つまり、神は私たちに毎日毎日「怖がらなくてもいい。恐れなくてもいい」と励ましを語っている。それが聖書の神です。

**イエス・キリスト到来の理由 1)** 私たちから恐れの原因を取り除くため。

先日、ニュージーランドのドタバタエッセイみたいなのをちょっと読みました。

私はニュージーランドに1回だけ行ったことがあります。不思議な国ですよ。星座が日本で見る時とは逆立ちなんです。南半球だから。色んな発見がありました。

さて、1人のご婦人が自宅のソファでくつろいでいたら、どこから入って来たのか小さな蛇がニョロニョロと。彼女は何が嫌いって、蛇ほど嫌いなものない。「きゃーっ！アナタ、助けて！」

アナタ/ご主人はお風呂に入ってたんです。奥さんがあんまりパニックになるから、裸でバスタオル巻いたまま「どうした?!」「蛇がソファの下にもぐり込んだのよ！」

長い夫婦生活で、彼女は蛇を取り出さない限り落ち着くことは出来ないというのが分かっていたから、「分かった。分かった。」四つん這いになって、蛇がどこにいるかソファの下をのぞき込んでいた。

すると飼い犬が、ご主人がパニック状態になっているから、何が起こったのかとリビングに入って来て、四つん這いになっている主人の後ろから「ナニしてんねん？」そのとき、主人の足の裏に、濡れた鼻がトンと付いたんです。その瞬間、ご主人は「咬まれた！」と勘違いして「ウワーッ！」元々高血圧です。奥さんはいよいよパニックになって救急隊を呼びました。

そして、大きな身体のご主人をぐっと持ち上げてストレッチャーに移している時、蛇が出て来た。救急隊の1人が蛇大嫌いな男で「うわっ！」ご主人を地面に落とした。その結果、ご主人の足が変な方向に曲がっているのを見た奥さんが卒倒した。蛇はそのまま出て行った。という話です。

この蛇は家族に何をしたでしょう？ただ入って、出て行っただけです。別に咬みついたワケじゃない。

毒蛇でもない。締め付けたのでもない。ただどこからともなくやって来て、どこかに去って行った。しかし、家の中はメチャクチャになり、身体に大ダメージを受けました。一体、何が彼らをこんなに酷い目に遭わせたのでしょうか？蛇ではない。蛇に対する恐れが、彼らの人生を荒らしたのです。私たちは物事によって倒されるよりも、物事に対する致命的な妄想によって、人生がいよいよ息苦しくさせられたり、否定的なもの・悲観的なものにさせられたりすることが多いのではないかと思うのです。

人生に於いて、時々、呼んでないのに、勝手に入って来る嫌なことってありますよね。生きてると良いことばかりではない。リストラ・事故・病気になることもあるでしょう。申し込んでいた保育園の抽選に漏れた・子供が受験に失敗して浪人が決まった…。人生の中で、全部の願い事が次々になんか行かないというよりも、残念なこと・ガッカリなこと・期待はずれのこと、そういったことって確かにありますよ。

生きている限り、良いことしか起こらないという人はいません。嫌なことしか起こらないという人もいないはず。良いことも嫌なことも両方あるのが人生ですが、ある人たちはすごくダメージを受けています。でも、ある人たちはそれほどダメージを受けているようには見えません。この違いはどこにあるのでしょうか？

先程話したように、私たちの人生をダメにするのは出来事ではなく、出来事に対する私たちの妄想です。起こった出来事を致命的な不幸なことのようになんか行かないというように妄想して行くと、その妄想に踏みつけられ、締め付けられ、コントロールされてしまう。そして、そのときの心境は「人生には隙があったら駄目なんだ。頑張らないとダメなんだ。負けてはいけないんだ。」

戦場にたった一人取り残された兵士のような心境で生きる時、私たちは段々疲れて行くんですね。

しかし、聖書は言います。「恐れなくていい！」様々な問題で恐れおののく人間に対して、人を造った神は言われます。「恐れなくてもいい。」なぜ恐れなくていいんですか？

「人生はあなただけで生きているんじゃない。あなたは忘れてるが、あなたの味方になろうとして、あなたの人生を日々見守り続け、様々な解任を与えて、今まで生かしている神がおられるからだ。」

小さなストレスでも、長く続くと大きなストレスになります。もし自分だけで対処しようとするなら、とっても苦しい。でも聖書は言うんです。「恐れなくていい。」

その最大の理由は「絶対に信頼出来る方がいるよ。その方を見失っているのが孤軍奮闘、とにかく隙を見せてはならない・弱みを見せてはならない・とにかく頑張らなければならない、と思いがちだけど、あなたを造った真の神・あなたの第一原因者・全てのものを造った全知全能の神がおられる。そして、その神はあなたを愛しているのだ。」

よく説明するのですが、神と言う時、日本人が考えるのは人間が作った神々なんですね。しかし、聖書が言う神は人を造った方・あなたの魂の親・あなたを愛している方がおられる。その方は全知全能。この全知全能の神がヘブライ語で“エル・シャダイ”。

“エル”は“力”を表して、お父さんのシンボル。“シャダイ”は“乳房を持つ者”の意味で、お母さんのシンボルです。

母の字にくさかんむりを付けたら？莓/いちご。お母さんを植物・果物で表すとイチゴなんです。甘くて・赤くて・丸くて・いい匂いがして・癒し系。威圧系じゃない。

父にくさかんむりを付けると艾/もぐさ。ヨモギを乾燥させた物で、お灸（きゅう）の材料です。子供が悪いことをしたら親は懲らしめますが、昔はそれを「お灸を据（す）える」と言いました。「もう悪いことせえへんから赦して！」「アカン！」言うて（\*お灸を据えるフリ）

つまり、全知全能の神は完全なる父性と完全なる母性の両方を持つ方。今はね、ちょっと、艾のような母、お母さんの方が怖いねん。艾みたいな母と苺みたいな父。やはり、役割というのはキッチリした方がいいんじゃないかと思いますが、バランスを取るのは中々難しいですね。

しかし、全知全能の神様の中には、完全なる父性と完全なる母性が同居している。すなわち、この方は全く歪みのない魂の親なのです。あなたの親。あなたを造った魂の親。そして、親は子供に対して最善以外のことを考えない。普通は。人間の親には残念なケースがあるかもしれませんが、神は不完全な方ではない。親は子供に対して最善以外のことを考えません。全知全能の神様は全知全能の力を、あなたの人生の最善のために惜しみなく使ってくださいます方です。

そんな方がおられる。そんな方が私を省みてくださっている。その方は私を愛してくださっている。その証拠として、神はイエス・キリストというプレゼントを与えてくださった。旧約聖書に、“やがて、人類を救済するために救い主を送る”という約束があったのですが、神は約束通りにイエス・キリストを送ってくださった。

これがキリスト到来の第1番目の理由です。私たちから恐れの原因を取り除くため。恐れの原因になっているのは、私たちが全知全能の魂の親を見失っていることです。私が神を忘れていても、神は私を忘れておられない。その創造主の愛を目に見える形で現すために、神はイエス・キリストを遣わしてくださいました。

**イエス・キリスト到来の理由 2) 私たちの救い主となるため。**

**11. 今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。**

**救い主がお生まれになりました。** さあ、この言葉を説明しなければなりません。

というのは、もし神が本当におられて、全知全能で、しかも私を愛しておられるのなら、私の人生の中に祝福だけではなく、時に呪わしい事件が起こるのは一体どういうことだ？

もし神様がこの世界を造ったのなら、どうしてこんなに不公平で、不正で、悪が横行しているのか？

もし神様が正しい方で私を愛しているのなら、私の人生にあんな嫌なこと・こんな辛いことが起こったのは一体どういうワケなのか？私の祝福は一体どこにあるのか？

祝福を受け損なわせている原因があるのです。聖書はその原因を“罪”と語るんですね。

この罪を取り除く、罪からの**救い主**となるために、私たちの罪を解決するために、イエス・キリストがこの世界に来てくださったのです。

アメリカの古典的作家にヘミングウェイという人がいました。家には彼の本が何冊もあります。

残念ながら、彼は最期自殺しますが、ハードボイルドの騎手、アメリカ古典文学の騎手と言ってもいいと思います。彼はノーベル文学賞を受賞しました。

ヘミングウェイが飛ぶ鳥を落とす勢いというか、文学賞も取って、あちこちで引っ張りだこの黄金時代、

アメリカ全州色々な所で「記念講演してください」と、よく招かれたんですって。  
皆さん、アメリカって広いですよ。私は去年6月に行きましたが、めっちゃ広いわ。どれくらい広いか、友人の家に入って思いました。「ひろ〜っ！」それ関係ない。日本の25倍。世界で3番目に広い国。大きな国なので、移動は私たちが電車に乗るように、国内線の飛行機を普通に使うんです。

ヘミングウェイは時間ぎりぎりに空港に行って、もちろんファーストクラスですよ、カウンターに行ったら、思いがけない扱いを受けるんですねえ。なんと、乗れなかったんです。  
「お客様、申し訳ありません。急な事態が起こりまして、お客様のファーストクラスの席は他のお客様にお譲りしました。他の席も全部埋まっております。申し訳ございません。」  
「予約しておいたではありませんか！」「存じ上げております。でも、どうしてもものっぴきならない事情で、他のお客様にお譲りすることになりました。」「どうしてもって、一体何なんだ？私の席を取ったのは誰だ?!」連邦議会上院議員でした。

議員には議員特権というのがあります。日本でも国会議員は新幹線のグリーン車乗り放題ですよ。月に3往復までなら、飛行機乗り放題ですよ。国会議員。他にも不逮捕特権とか色々な特権がある。連邦議会上院議員。今度1月6日、ものすごく大変ですね。でも今日はその話、しないんです。連邦議会上院議員が「どうしても急な用事が出来た。行かなければならない。席を確保してくれたまえ」のように航空会社に言ったら、航空会社にはそれを拒む権限がないんです。それほどまでに、国会議員・連邦議員の特権というのはいかにあるんですね。

それに、ヘミングウェイはギリギリに行ったでしょ。既に席に座ってたらそんなことにならなかったけど、「この席しか空いてません」ということで、上院議員がそこを取って乗って行き、ヘミングウェイは次の便まで待たされることになりました。

ところで、この上院議員、何の用事かという、ヘミングウェイの講演会に出席するためだったんです。向こうに着いて、メッチャ怒ったそうです。「俺、ここに来るのに、どれだけ大変やったと思ってんねん？」だけど、その講演会を催すことが出来なくなった最大の原因は、彼が自分の権力を使ったところにあるんですよ。彼は飛行機からヘミングウェイを追い出しておきながら、ヘミングウェイの話を聞きたいと願っている。ヘミングウェイを追い出した瞬間、彼の話聞くことが出来たはずの人たち全員が聞くことが出来なくなっているんです。

祝福の源である人物を追放しておいて、その人から出て来る祝福の部分だけ欲しいと言っても、それを受け取ることは出来ません。聖書は「全ての人はその人生から自分の造り主を追放して生きているのだ」と語っています。

「私を造り、私を生かし、私に人生の目的を与えた私自身の作者などいない。たとえいたとしても、私の人生とは関係ない。私は好きなようにやって行く。」神様との関係を断絶して、神などいないかのような人生観に立って生きて行きながら、同時に「神がいるなら、なぜ私に祝福が来ないんだ？」祝福を与えたいと神は願っておられる。しかし、それを受け損なう原因を、人間自らが作っているのだ。

人生から創造主なる神を追放する生き方を聖書は“罪”と語るのです。  
あなたの主権者・もっと言えばあなたのオーナー・あなたの第一因者・あなたをこの世界に造り出した使命と目的を与えた方。その方なんか要らないと言いながら、その方からの祝福を受け損なって行くというのは本当に残念なことですね。

ところで、ヘミングウェイはどうしたと思います？乗り遅れて行って、ちゃんと話してるんです。私はそれを見ながら、「神なんか要らない！」と言っている人間に、神は「勝手にせい！」と言われたのではない。「創造主なんか関係ない」と言う人間を、まるで追いかけるように、今から約 2000 年前、神はご自分のひとり子イエス・キリストを、旧約聖書の約束通りにベツレヘムに遣わし、処女マリアから誕生させなさいました。

ある有名な商社の就職説明会に、英語がすごく達者な学生たちが集まっていました。「僕はスペイン語が出来ます。」「僕はフランス語が出来ます。英語は当たり前です。」「僕は中国語も出来るし英語も出来ます」と人事担当者に自分を売り込んで行きます。そこで、こんな質問があったそうです。「これから世界に日本のものを売って行くのに、1 番必要な言語は何でしょう？」これ、引っ掛け問題かな？英語に決まってるしな…。いや、中国語のことかな？待てよ。これからはヒスパニックの人口が増えるからスペイン語かな？だけど、やっぱり英語やろ。

皆「やっぱり英語です。」そしたら人事の人が「いや違う。お客さんの言葉だと思う。」日本人に売る時は日本語が出来ることが条件です。マサイ族に売る時は、スワヒリ語が出来ることが特別な説得力を持つことになりますね。たとえ英語が出来ても、英語が外国語である場合、母国語で語られる方が心に触れるんじゃないですか？

神は人間には分からない高尚な言葉を天から投げかけたのではなく、人となって来てくださった。それは、あなたが人だからです。私たちと同じように、食べなければ腹が減り、殴られれば痛くて、斬られれば血が出る。裏切られたら悲しく、愛されれば嬉しい。感情豊かな、人間がイメージ出来る姿でこの世界に来てくださいました。何のために？その尊い方が、神と私たちをもう一度結び付けるために。

神を追放することが罪であるならば、そこからの回復とは、神の前にまた子供として立ち返るということです。この立ち返る資格を与えるために、神はイエス・キリストとなって、この世界に来てくださったのです。詳しくはもう少し後で話します。

**イエス・キリスト到来の理由 3)** 私たちに死の備えをさせるため。人間にとって 1 番でかい問題。私たちは皆いつか死にます。今生きているというより、厳密には死につつあるのです。今日産まれたばかりの赤ちゃんは余命百年の末期です。生まれた人は皆死ぬのです。なぜ？生まれて来た命の中に、既に死がプログラムされているから。なぜ人間の命の中に死が入ったんですか？命のルーツである神から離れた結果、全ての人の中に死が入った。そして「人間は 1 度死ぬこと、死後に裁きを受けることが定まっている」と聖書は厳粛に語っているのです。

皆さんは宮沢賢治（みやざわ けんじ/1896-1933/M29-S8）、詩人にして童話作家をご存知でしょうか。『風の又三郎』『銀河鉄道の夜』『注文の多い料理店』…僕はよく読みました。「宮沢賢治の作品、あんまり知らんわ」と言う方でも、この作品は知っているであろうと言われている詩が 1 つありますね。『雨ニモマケズ』。最近の若い人は知らないかもしれないけど。

『雨にも負けず』

雨にも負けず 風にも負けず 雪にも夏の暑さにも負けぬ 丈夫なからだを持ち  
欲は無く 決して瞋（いか）らず 何時（いつ）も静かに笑っている

一日に玄米四合と 味噌と少しの野菜を食べ  
あらゆる事を自分を勘定に入れずに 良く見聞きし判り そして忘れず

野原の松の林の影の 小さな萱葺きの小屋に居て  
東に病気の子供あれば 行って看病してやり  
西に疲れた母あれば 行ってその稲の束を背負い  
南に死にそうな人あれば 行って怖がらなくても良いと言い  
北に喧嘩や訴訟があれば つまらないからやめろと言い

日照りのときは涙を流し 寒さの夏はオロオロ歩き 皆にデクノボーと呼ばれ  
誉められもせず苦にもされず そういう者に 私はなりたい

実は、この作品は彼が死んだ後に発見されたんです。唯一の遺品と言われているポストンバッグから手帳が出て来て、その裏表紙みたいなところに書かれていました。

宮沢賢治は明治生まれの方です。明治生まれの青年にとって理想像は立身出世です。高い地位に就いて有名になる。これが明治の若者の理想像。彼は実際、後の岩手大学の農学部で首席で入りました。末は博士か大臣か。だけど、この詩ではっきり言っている。「デクノボーと言われて、皆から誉められもせず苦にもされず、そんな人に私はなりたい。」立身出世の対極じゃないですか。

なぜ彼は「デクノボーになりたい」と言ったのか？この『雨にも負けず』の詩にはモデルがあるのです。彼の身近に20歳年上のクリスチャンがいました。斎藤宗次郎（さいとう そうじろう/1877-1968/M10-S43）。斎藤宗次郎は元々国粋主義者。だけど、内村鑑三（うちむら かんぞう/1861-1930/文久2-昭和5）の影響を受けて、彼の著作を通して聖書と出会い、やがてクリスチャンになる。

そして、内村鑑三が非戦論を唱えたので「日露戦争反対！」彼は小学校の先生だったのですが、なんと小学校で「日露戦争反対」を言ったために、教育委員会から睨まれて最終的にクビ。それで「コイツは売国奴だ！裏切り者だ！何考えているか分からない！」ということで、まあ酷い扱いを受けて、長女愛子ちゃんは傘でお腹を突かれて腹膜炎を起こし、9歳で死んだ。

もう食べて行くことも出来ない。どうしようとなった時、新聞配達を始めました。この人の新聞配達のやり方はすごい。1軒配って10メートル行って祈り、1軒配って10メートル行って祈り、また1軒配って河原に下りて賛美する。また1軒配ってそこで感謝する。配達、遅いと思います。僕も新聞配達やってたから。2年間。

彼は出発する前に、ポケットに飴玉をいっぱい入れ、反対側のポケットには小銭をぎゅうぎゅう詰めに入れる。そして貧しい子供を見たら飴をあげる。病床に伏せって、医者に診てもらえない人がいると分かったら、その枕元に行って「怖がらなくていいよ。」聖書を1節読み、枕元に小銭を置いて、また配達を続ける。彼が1日に歩いた距離は40キロと言われてるんです。毎日マラソンですよ。凄まじい。

初めは「コイツは売国奴だ。何考えているか分からない。外国の宗教にかぶれやがって、おかしい奴だ！」それがこうやって、花巻の町々村々・1軒1軒、彼が行かなかった家は1軒もないというくらい。それを17年間続けるんです。

17年間続けて、いよいよ内村鑑三が「斎藤、俺の弟子たちは皆去った。お前に来て欲しい。」

「内村先生のお役に立てるのなら」と彼は一家をあげて上京します。

そのとき、花巻の駅前には人々が殺到して身動き出来ないほど。その中に宮沢賢治もいたんですよ。

斎藤宗次郎が東京に着いて、最初にもらった手紙は宮沢賢治からでした。「あなたとの別れが辛い。」

その手紙の5年後に、この詩を書いたんです。

「欲は無く 決して瞋（いか）らず 何時（いつ）も静かに笑っている」

人々から「デクノボー」、要するに「役に立たない人間」と言われていたけど、斎藤宗次郎はその悪口とは裏腹に、一人一人弱い人に寄り添い・付き添い、気落ちしている人を慰め・勇気を与え。

そして、彼の訪問を受ける1人が宮沢賢治だったのです。彼の作品は、彼が生きていた時には殆ど理解されなかったけど、最大の高評価読者 斎藤だったんですね。それは作家として嬉しいことでしょう。

実は、デクノボーの生き方をする斎藤宗次郎にもモデルがいたんです。それがイエス・キリストです。

キリストは生まれつき目が不自由な人の所に行って「見えるようになれ」と病気を癒し、罪におののく人に対しては「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪は赦されている。」

隣で十字架に掛かって「俺はどうなってしまおうんだ?!」と恐れおののいている人に、「まことに、あなたに告げます。あなたは今日、わたしとともにパラダイスにいる。怖がらなくても良い。」

キリストは1度も悪いことをしませんでした。いや、良いことしかなさらなかった。

その方が十字架に掛けられる時、「わたしは良いことしかしなかったじゃないか」と言って、十字架から逃げる道もあったけど、キリストはそれをしませんでした。

「わたしは良いことしかしなかった。悪いことは何一つしなかった…」ので、十字架に掛かる資格を得た。全ての人の罪の償いのために。」全ての人の罪の身代わりになることが出来るのは、罪の無い者だけだからです。

イエス・キリストの生き方をひと言で言うなら、“世にもバカな男の生き方”だと思います。

それはデクノボーの生き方です。評価されずに捨てられ、罵られ、嘲られて。

しかし、悪いことをしている者が自分は悪くないと逃げて行く中で、キリストはあの十字架の上で「わたしがその罪を背負います。父よ。彼らを赦してください」と祈りを献げられたのです。

正しい者が罪人の罪を担い、罪人が「俺は悪くない」と言って逃げる。

ここに、神の御子と人間の本質の決定的な違いを見ることが出来るのではないのでしょうか。

イエス・キリストは私たちのために十字架に掛かって死ぬために、この世界に生まれてくださいました。

**ルカ 2:12** **あなたがたは、布にくるまって飼葉桶に寝ているみどりごを見つけます。**

飼葉桶と訳されているけど、これは天然の洞穴（ほらあな）です。天然の洞穴に、布にくるまれて寝かせてられている赤ちゃんを見る。これがイエス・キリストの生涯を象徴してるんだと言ったんですね。

**ルカ 23:53** **彼はからだを降ろして垂麻布で包み、まだだれも葬られていない、岩に掘った墓に納めた。**

からだはイエス・キリストの体。十字架に掛かったイエスの体を十字架から降ろして垂麻布で包み、まだだれも葬られていない、岩に掘った墓に納めた。

岩に掘った墓に納めたという言葉と飼葉桶に寝ているという言葉は、ギリシア語では同じ単語が使われているのです。布で巻かれた体が穴の中に置かれている。それは人が墓場に埋葬された時の姿。

生まれたばかりのイエス・キリストがその装いをしている。すなわち、この方は死ぬために来られた。いや、死んで3日目によみがえるために来られたのです。よみがえるには、まず死ななければなりません。このキリストの犠牲によって、私たちは罪赦され、神の子とされ、死んでも永遠の天国に行く国籍を持ち、地上で何があっても神様のエスコートを頂くことが出来るのです。

人類歴史はイエス・キリストの到来によって、新しい紀元/ADに入りましたね。それから2020年経ちました。皆さんが自分の心の中にイエス・キリストを迎えるなら、同じように、皆さんの人生の中に紀元前と紀元後が出来るとです。新しい時代が始まります。キリストと共に歩む人生が始まります。もしどこかで死ぬようなことがあったとしても、天国に直行という道に至るのです。いかかでしょうか。ぜひイエス・キリストを信じてください。

プレゼントという言葉には2つの意味があります。1つは贈り物ですね。でも、英語でPresentと書くと“今・現在”の意味があります。過ぎ去った時間はもう取り戻すことは出来ないし、未来は、そのとき生きているかどうか分かりません。今というこの時間だけが、私たちが活用できる時間ですね。チャンスなのです。

ぜひイエス・キリストを、ご自分の救い主として信じ受け入れてください。心からお勧めして、クリスマス・メッセージとさせていただきたいと思えます。最後までご清聴ありがとうございました。

- ~~~~~
- \* 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」
  - \* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約15分)もぜひどうぞ。YouTube もあります。
  - \* YouTube「[ごうちゃんねる](#)」もぜひ見てください。

動画筆記 : Rumi